

原発再稼働に固執する勢力を批判

「なくそテ原発2019 柏崎大集会」で金子勝慶大名誉教授

「なくそテ原発2019 柏崎大集会」が1日、柏崎市文化会館マルフォーレで開催されました。1階席、2階席は満杯、3階席もほとんど埋まっていたとのことでしたが、昨年よりも大勢に見えましたね。

今年の集会で一番注目したのは、慶応義塾大学名誉教授、金子勝さんの講演です。金子さんは「原発を止めないと、日本は成長できない」と題して講演しました。

金子さんは先の新潟山形地震と東電による自治体への誤報、中越沖地震時の「粗末な対応などにふれながら、「すでに原発では経済が成り立たないことは明白、国も電力会社も世界の判断に逆行している。経産省は、経済産業妨害省」と題して講演しました。



市の総合防災訓練が1日、清里中学校周辺で行われ、地元の方や近隣の人たちが参加しました。今回の訓練は高田平野の東縁断層帯が動いて震度6強の地震が発生したという想定で、確実な避難行動、

清里区で総合防災訓練

縁働を執念深く狙っている勢力の動きを批判しました。このところ、新潟の国政選挙などで市民と野党の共同勢力が勝利していることにも言及、この背景には柏崎刈羽原発再稼働問題があるとのべていました。金子さんはマイクを持って壇上を動き回り熱弁をふるっていました。これほど聴衆を奮い立たせる演説をする人だとは知りませんでした。講演が終わって、フォーカグループ、「ないらねじよんのびーず」の歌と演奏を聴きました。歌のタイトルは「腰まで泥まみれ」しか記憶に残っていませんが、私にはすべての曲がともいって感じでした。いつか、上越にも来てほしいものです。



【ガガブタ】ミツガシワ科の多年草。日本の本州以西の池等で見られるそうです。漢字で「鏡蓋」と書きます。写真のガガブタは吉川区代石のある家の水がめで見つけたもの。白い花は雪の結晶のように美しい。花の大きさは、すぐそばを泳ぐメダカと比較してください。花言葉は、「純情」「信頼」など。

地域住民と防災関係機関等の連携、協力体制等の実現をめざしました。私は、福祉避難所開設訓練、指定避難所運営訓練、災害ボランティア活動訓練などを見て回りました。この中では、なるべく体験できるものは体験するようにしました。災害伝言ダイヤル、認知症体験などです。福祉避難所では段ボールのベッドに寝てみました。意外としっかりして、寝心地も悪くありませんでした。段ボールでも250キロの重さに耐えられるというからすごいですね。写真は福祉避難所訓練。



賑やかに選対解散式

うち越さくら選対新潟県本部の解散式が31日新潟市であり、約170人が参加しました。

式の冒頭、西村ちなみ選対本部長は、「勝つことができ感謝無量。それぞれがちょっとずつ違う。それが力を合わせ勝った。打越さんの勝利は皆さんの勝利」と挨拶しました。

第2部の交流会。野党各党、市民団体の人たちと賑やかに交流しました。このなかで、県内各地でのたたかひのドラマを興味深く聴きました。イラストは社民党、新社会党、共産党の人たちと一緒に私です。



はしづめ法一の活動レポート

No.1924 2019.9.8
 発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
 Tel 025-548-3628
 通じないときは 090-5392-1961
 E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
 URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見えある記」はこちら


春よ来い

第五七二回 ヤイヤイヤ

三か月ぶりに次男夫婦と孫のリョウ君がやってきました。お盆の初日、お墓参りを済ませてから、みんなでスカイトピア遊ラウンドに集まり、夕食会を楽しみました。

夕食会は午後六時過ぎから。二つの大きなテーブルの上には、豚肉、ニンジン、なた豆、ジャガイモなどの焼き肉セット、刺身、カボチャやエビなどの天ぷら、サバの煮物、トコロテン、さらに特別注文したイワナの塩焼きなどが並んでいます。たくさんのご馳走を見た母は、「じりや、殿様だ」と言って喜びました。

リョウ君にとっては、めずらしい食べ物ばかりです。トコロテンを食べているとき、「味はどうですか」と聞いたところ、「すっぱ過ぎ」という答えが返ってきました。大人にはちょうどいい味だったのですが、子どもには少しきつかったのでしょうか。それにしても、もう「すっぱい」という言葉を覚えていたのには驚きました。

その後、しばらくは、みんなが座って食べていましたが、リョウ君が突然立って、大人たちの料理を見渡すと、「お肉！」と言いました。自分だけ、子ども用の食べ物となっていることに気づいたのかも知れません。いやはや、大人顔負けの食欲です。

私たち大人がビールやウーロン茶などを飲んで、おしゃべりがはずんでいる時のこと、リョウ君は何を思ったのか、魔法瓶のそばに行き、麦茶を出し始めました。茶碗を用意し、そのなかに麦茶を注ぐ。たったそれだけのことでありますが、魔法瓶の上部の丸いところを手でしっかりと押さないと麦茶は出てきません。これを一回覚えたら、二度、三度とやってみたいんですね。それと、麦茶の色が入ったようです。「ビールみたい」とニコニコしながら、麦茶出しを繰り返していました。

麦茶出しが一段落すると、リョウ君、今度はテーブルのまわりをどび回り始めました。じっとしていられないのでしょうか。でも、他のみんなが飲み食いしているさなかです。お父さんに捕まり、「ひげ攻撃」を受けました。ほっぺにひげをくつつけられるとチクチクします。それがいやでリョウ君は何度も逃げようとしていました。

お父さんが観念し、やっと逃げだしたリョウ君、次はテーブルの下にもぐりました。テーブルは二つ並べてあり、その下は絶好の遊び空間です。高さが四〇センチくらいしかないなかで、両手でぐいぐい体を動かし、右へ左へ。私が「そんがんどこ、もぐらんで、こっち来なさい」と声をかけても、言葉にならない声をあげながらやめようとはしませんでした。私が面白半分には注意していることはすっかり見抜かれていたようです。

テーブルの下から出たところで、リョウ君は再びお父さんに捕まりました。お父さん、今度は「こちょこちょ攻撃」を開始しました。リョウ君は「キャッキャ」と言いながら抵抗、「こちょばしちやダメ」としきりに訴えていました。

ようやく「こちょこちょ攻撃」から逃げ出すと、リョウ君は「ヤイヤイヤ」と言って、テーブルの周辺を元氣よく動きまわりました。

こうして夕食会の始めから終わりまで、大人はリョウ君の一挙手一投足に注目しました。「すっぱい」「こちょばす」など使える言葉がぐんと増えるなど、ここ数か月の成長ぶりに目を見張りました。

それにしても「ヤイヤイヤ」は何の意思表示なのでしょう。私には、勝ち誇って踊るときのように思えました。しばらくは、リョウ君の天下が続きます。

未婚者の9割以上は「結婚したい」

ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	8月28日(水)	9月4日(水)
上越南消防署	0.047	0.043
上越北消防署	0.047	0.047
新井消防署	0.043	0.050
頸北消防署	0.050	0.050
頸南消防署	0.053	0.053
東頸消防署	0.050	0.047
高士分遣所	0.050	0.043
名立分遣所	0.050	0.057

結婚を推進するための婚活講演会が1日、「ゆったりの郷」で開催されました。「次世代を励ます会」(大滝健彦代表)主催の新潟結婚活動親の会代表の大海原祐樹さんが「親と考える結婚の問題」と題して1時間半にわたって話されました。

たんたんとした話ではありましたが、何よりも結婚についてのいまの状況をリアルにつかむことができ良かったです。「生涯で一度も結婚しない人は、40年前は2%だったが、いまは20%にもなっている」「9割以上の人がいずれは結婚したいと思っている」などの他、生涯未婚率は50歳までに一度も結婚しない人の割合を言うとか、結婚相談所に支払う成婚料というのは、出会いが成立し、交際が始まった時に支払われるもので結婚が成立した時に



私うものではないことなど初めて知ることがいくつもありました。最後に、「良縁のためにまず親がすべきこと」として大海原さんは、①親と子で同じ目標を持つ、②家族、親戚、知人、全員をなるべく巻き込む、③「お相手探し」を具体的に考える、④地域の婚活イベントに参加する、をあげておられました。このことは、私たち団塊の世代の結婚の頃と同じだと思いましたね。考えさせられました。